

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> 語彙力が乏しい。小学校5・6年生の漢字が理解できる生徒が半数程度である。 文章を記述する際、主語がない生徒が多く、長文の記述を苦手とする生徒も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字テストを学期に複数回実施し、語彙力の定着を図る。 長文を記述できるようにするため、文章構成の仕方を指導するとともに、主語・接続語の働きを特に意識させ、書かせていく。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 学習に集中できない生徒が多い。 基礎的・基本的な知識が定着していない生徒が全体的に多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 視聴覚教材を活用し、興味や関心をもたせる。 授業内容を精選し、授業課題を分かりやすくする。 達成感を感じられる取り組みを取り入れる。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> 全体指導ではなかなか理解が進まない生徒が多く、基礎・基本の定着に課題のある生徒が多い。 自分の考えを整理し、論理的に説明することが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別授業での指導や学力向上支援講師との協力で、個別指導の機会を増やし、基礎・基本的な内容の定着を図る。 感染防止に努めつつ、ペアワークやグループワークで自分の考えを発言する機会を設け、思考し、表現する力を養う。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 「読む」がかなり難しい。演示実験などを見て、マネをすることで実験に取り組むことができるが、注意事項等をよく読み、実験に取り組むことができる生徒の割合が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学び合い、教え合いは当然のことと思うが、全体で読む時間も大切にしたい。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 授業は、全体としては集中しているが、まだ、音楽や音楽文化を親しむところまではいっていない。 リズム打ちや創作は簡単なものはできるが、歌唱はコロナのために基礎的な発声練習ができず、思う存分力を発揮できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 理論や曲の背景をしっかりと学んだ上で、それを表現する楽しさを感じられる取組をさせる。 コロナ対策を取りながら、創意工夫を生かした音楽表現をする能力を身に付けさせる。 	
美術	<ul style="list-style-type: none"> 美術表現を楽しみ、主体的に学習に取り組む生徒と、基礎・基本が定着しておらず力を発揮できない生徒に二極化している。 言葉で自分の取り組みを振り返ることに課題のある生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校段階の既習事項の復習を丁寧に行うことで、生徒の困り感を解消する。 主体性を発揮できる生徒への追加課題や発問を設定し、生徒の学習状況に合った指導を行う。 学習の目標確認、振り返りの時間を充実させる。学びの確認、調整を意識させる。 	

保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動能力の低い生徒が多い。 ・意欲的な生徒とそうでない生徒の二極化がみられる。 ・新体力テストの結果より、補強運動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・50分の授業の中で運動量を確実に確保し、生徒の体力向上を図る。 ・苦手意識があれば、意欲が低いのは当然である。生徒同士の教え合いや段階的な指導を行い、少しでも自信をつけさせ苦手意識を克服させる。 ・補強運動を毎時間取り組んでいく。 	
技術 ・ 家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・道具や機械の使用経験に個人間の差が大きく、知識や技能の習得にも大きく差がある。 ・知識的に理解できていることも、実情に応じた活用方法を考えることを苦手に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見本動画を活用する。 ・感染防止に努めつつ、小グループでの教え合い、助け合いができる環境作りを行う。 ・使い方や使う場所を生徒自身に考えさせた上で、設計や制作を行うという手順で作業を行っていく。 	
外国 語	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力があり文法の基礎を理解している生徒と、単語や文章を書くのが遅く、正確さに欠ける生徒の二極化が目立つ。 ・聞いたり読んだりして理解することはできるが、正確に書いたり話したりする力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップと対話を通じた繰り返し学習で全体の底上げを狙う。 ・单元ごとの目標を明確にし、達成感をもたせる。 ・ペアワークやグループによる協同学習によって思考判断表現の力を養う。 ・ALT と実践的な会話活動をいれる。 	

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で習う漢字が身に付いていない生徒が多い。 ・文章を読む力、自分の考えを書く力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に漢字テスト等の小テストを行う。 ・定期的に読解問題を実施し、解説を行う。 ・主語、述語を意識した文章が書けるよう指導する。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識が定着していない。4～5問の小テストで満点を取れない生徒が多い。 ・記述力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識の定着のために、小テストで全員満点を目指す。そのために、口頭の一問一答や重要語句の復習を行っていく。 ・記述を書く練習をする。その際、主語述語を明確にさせ、入れるべきキーワードを意識して書かせるよう指導する。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・静かにはしているが何も取り組まない生徒もあり、基礎・基本の定着に課題のある生徒が多い。 ・発言を求めても、黙ってしまって、なかなか返答を得られないことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業での指導や学力向上支援講師との協力で、個別指導の機会を増やし、基礎・基本的な内容の定着を図る。 ・感染防止に努めつつ、ペアワークやグループワークで自分の考えを発言する機会を設け、思考し、表現する力を養う。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・技能や、習得した知識を併せた活用能力が乏しい。 ・根拠を伴った思考・判断に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や身の回りの社会現象を扱った学習課題を工夫していく。 ・基礎基本の定着を図るべく、自己の振り返りを促すための定期的な小テストの実施。表現力向上と多様な価値観の創造を目指した対話的な学びを推進していく。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、集中して取り組んでいるが、発言は限られた生徒が多い。 ・楽曲の構造や背景などの関わりについては、理解しつつある。 ・リズム打ちや創作は簡単なものはできるが、歌唱はコロナのために思う存分力を発揮できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言については、多くの生徒に機会が与えられるように発問を分かりやすくしていく。 ・鑑賞だけでなく、歌唱曲等についても楽曲の構造をしっかりと理解させる。 ・コロナ対策を取りながら、創意工夫を生かした音楽表現をする能力を身につけさせる。 	
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉で自分の取り組みを振り返ることに課題のある生徒が多い。 ・創造性を発揮して、主体的に制作学習に取り組むことができる生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の目標確認、振り返りの時間を充実させる。学びの確認、調整を意識させる。 ・主体性を発揮できる生徒への、追加課題や発問を設定し、生徒の学習状況に合った指導を行う。 	

保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動能力の低い生徒が多い。 ・意欲的な生徒とそうでない生徒の二極化がみられる。 ・新体力テストの結果より、補強運動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・50分の授業の中で運動量を確実に確保し、生徒の体力向上を図る。 ・苦手意識があれば、意欲が低いのは当然である。生徒同士の教え合いや段階的な指導を行い、少しでも自信をつけさせ苦手意識を克服させる。 ・補強運動を毎時間取り組んでいく。 	
技術 ・ 家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・道具や機械の使用経験に個人間の差が大きく、知識や技能の習得にも大きく差がある。 ・知識的に理解できていることも、実情に応じた活用方法を考えることを苦手に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見本動画を活用する。 ・感染防止に努めつつ、小グループでの教え合い、助け合いができる環境作りを行う。 ・使い方や使う場所を生徒自身に考えさせた上で、設計や制作を行うという手順で作業を行っていく。 	
外国 語	<ul style="list-style-type: none"> ・一般動詞の知識の広がりはまだ身に付いていない。 ・文脈は読み取れるが、そこから思考を広げる力が弱い。多様な表現力は身に付きつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現活動とリンクさせながら、一般動詞の知識の広がりをも身に付けさせる。 ・文脈のバックグラウンドを思考させる練習を取り入れる。 	

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら分析・思考して説明できる生徒が少ない。 ・語彙力が不足している生徒が多い。 ・条件作文において条件を把握しないで書く生徒がまだ多い。 ・全体的に記述式の問題を苦手とする生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では教師から発問をして答えを説明させる機会をずっと設けているが、さらに多くの生徒に機会を与えていく。 ・漢字・語句の学習機会をさらに増やしていく。 ・条件作文をさらに進め、条件把握と記述の方法を身につけられるようにする。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・学年相応の知識や態度が身につけていない生徒が全体的に多い。 ・与えられた課題には、素直に取り組むが、興味・関心が低いため、内容の発展や深まりが浅い。 ・自学自習の習慣が身につけておらず、単純な学習に偏りがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を精選する。 ・授業課題を分かりやすく、明確にする。 ・達成感を感じられる取り組みを取り入れる。 ・視覚教材の活用と、ホワイトボードに投影することによる資料読み取り補助を行う。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・静かにはしているが何も取り組まない生徒もおり、基礎・基本の定着に課題のある生徒が多い。 ・発言を求めても、黙ってしまって、なかなか返答を得られないことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業での指導や学力向上支援講師との協力で、個別指導の機会を増やし、基礎的・基本的な内容の定着を図る。 ・感染防止に努めつつ、ペアワークやグループワークで自分の考えを発言する機会を設け、思考し、表現する力を養う。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の学力の定着に課題がある。 ・主体的に学習に取り組む態度に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で、既習内容について確認問題をより取りこませる工夫をし、学力の定着を図る。 ・章ごとに、既習内容をベースに自らの発展的な課題や活用についてレポートを作成させ、主体的に取り組む態度を醸成させる。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、集中して取り組んでいるが、発言は限られた生徒が多い。 ・楽曲の構造や背景などの関わりについては、理解しつつある。 ・リズム打ちや創作は簡単なものはできるが、歌唱はコロナのために思う存分力を発揮できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言については、多くの生徒に機会が与えられるように発問を分かりやすくしていく。 ・鑑賞だけでなく、歌唱曲等についても楽曲の構造をしっかりと理解させる。 ・コロナ対策を取りながら、創意工夫を生かした音楽表現をする能力を身につけさせる。 	
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・美術表現を楽しみ、主体的に学習に取り組む生徒と、基礎・基本が定着しておらず力を発揮できない生徒に二極化している。 ・暗記に重きを置く生徒が多く、実技を通じた気付きや学びに対する意欲が少ない生徒がいる。 ・言葉で自分の取り組みを振り返ることに課題のある生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の復習を丁寧に行うことで、生徒の困り感を解消する。 ・主体性を発揮できる生徒への、追加課題や発問を設定し、学習状況に合った指導を行う。 ・題材の目標を丁寧に生徒に伝え、創意工夫や表現につなげることの重要性を目標と振り返りで伝える。 ・学習の目標確認、振り返りの時間を充実させる。学びの確認、調整を意識させる。 	

保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動能力の低い生徒が多い。 ・意欲的な生徒とそうでない生徒の二極化がみられる。 ・新体力テストの結果より、補強運動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・50分の授業の中で運動量を確実に確保し、生徒の体力向上を図る。 ・苦手意識があれば、意欲が低いのは当然である。生徒同士の教え合いや段階的な指導を行い、少しでも自信をつけさせ苦手意識を克服させる。 ・補強運動を毎時間取り組んでいく。 	
技術 ・ 家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・道具や機械の使用経験に個人間の差が大きく、知識や技能の習得にも大きく差がある。 ・知識的に理解できていることも、実情に応じた活用方法を考えることを苦手に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見本動画を活用する。 ・感染防止に努めつつ、小グループでの教え合い、助け合いができる環境作りを行う。 ・使い方や使う場所を生徒自身に考えさせた上で、設計や制作を行うという手順で作業を行っていく。 	
外国 語	<ul style="list-style-type: none"> ・単語や連語などの語句が身につけていない。 ・自らの考えを表現することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音と文字をリンクさせるために音から練習する。 ・毎時間、スピーキング練習で自分自身の考えを話す活動を取り入れる。 	